令和８年度　第２次南砺市総合計画推進委員会
議 事 概 要

開催日時：令和 8 年 9 月 29 日（火）　13 時 00 分～14 時 30 分
開催場所：南砺市役所別館 3 階大ホール
出席委員：10 名　大西委員長、武田副委員長、吉田委員、北本委員、村澤委員、
三都井委員、戸成委員、森田委員、遠藤裕子委員、遠藤あずさ委員
推進本部：10 名　市長、副市長、教育長、総合政策部長、総務部長、市民協働部長、ブランド戦略部長、ふるさと整備部長、教育部長、地域包括医療ケア部長
傍聴人：0 人

次　第

１．開会
２．委嘱状の交付
３．市長あいさつ
４．委員の紹介
５．委員長及び副委員長の互選（あいさつ）
６．議事
・総合計画　令和７年度実績の検証結果について
・令和７年度地方創生関係交付金事業の進捗について
７．意見交換
８．閉会

議事要旨　　○：委員からの意見・質問　●：推進本部の意見・回答

（６　協議事項について資料に基づき事務局より説明）

【未来に希望が持てるまち】について

○待機児童ゼロ等の成果を評価した上で、子どもが出す SOS を受け止める仕組みの重要性を指摘。スクールソーシャルワーカー等の専門職や関係機関と連携してできることについて市の見解を質問した。

●情報端末等を活用し、子どもが直接意見や SOS を入力できる仕組みを導入し始めており、担当者が確認・対応する体制、子どもの声を拾える仕組みづくりを整えつつある旨を回答した。

○タブレット等の活用による意見収集を評価し、親や先生以外の第三者（斜めの関係）に相談できる環境づくりの大切さを補足した。

○小中学校の統合に伴う「ふるさと教育」について質問。山や地域での体験・先人の学びが統合によって希薄化しないよう、故郷への愛着や誇りを学べるプログラムの継続・強化を要望した。

●現在も中学校区ごとに9年間の見通しを持ったプログラムを実施しており、新しい学校の設置に向けた地区委員会でも一貫したプログラムを作成・推進していくと回答した。
○学校教育だけでなく、地域の力を借りて地域ぐるみで取り組むことの有効性を指摘した。
○若者懇談会での意見として、小中学校の統合や部活動の地域移行が進む中で、地域による縛りを減らし、選択肢の幅（大小の学校、多様な部活動）を広く設けてほしいと要望した。
●特認校制度の活用や多様な規模の学校の存続に加え、部活動の地域移行に伴い市内各地のクラブを選べる環境整備を進めている（交通手段等の課題解決も目指す）と回答した。
○選択肢の多様性が生活の質を高めると賛同した。
○20代女性の転出問題に着目。子育て支援に加え、家・仕事を問わず女性が自分らしく働き、夢や目標を持てる職場の創出が必要であるとし、Play Earth Park等を含めた若年女性向け就労施策について質問した。
●家賃補助・定住支援・奨学金返還支援をパッケージ化した手当てを進めるとともに、Play Earth Park等の大型プロジェクト事業者と情報交換を行い、若者・女性の雇用創出に向けた働きかけを継続していると回答した。

【多様な幸せを実感できるまち】について
○1点目として女性役員登用ガイドライン策定後の具体成果を質問。2点目として終了した女性チャレンジ支援事業に触れ、女性の起業や事業挑戦に対する今後の継続支援策を求めた。
●1点目について、地域の会議で規約見直しを行い女性役員の登用を明記した自治会が出現し、女性が声を出しやすくなった事例を報告。2点目について、2年間の講座受講生や専門家ネットワークが形成されており、自主的活動をサポートしつつ市の支援策を検討していくと回答した。

【心豊かな暮らしができるまち】について
○空き店舗を活用した新規創業の件数について、井波などの特定エリアに偏りがあるのか、市内各エリアの状況について質問した。
●手元に詳細データはないものの井波エリア等に勢いがあることを認め、他地域でもPRや庁内連携を見直し、全域で成果が出るよう取り組むと回答した。
○地域ごとの価値や魅力を生かした創出の重要性を確認した。
○行政のDX推進（エルタックス等のデジタル税申告・納付）に関して、事業者や法人への導入サポートを行政が主体的に行ってほしいと要望した。
●事業者向けの情報提供や導入支援策を検討し、金融機関とも連携して推進していくと回答した。

【皆で考えともに行動するまち】について
○小中学校9年間のふるさと教育について、単に知識を得るだけでなく、中学3年時に地域へ大きな提案やプレゼンを行うような探究・提案型教育への深化を提案。地域側も負担にならない形で協力したい旨を述べた。

●9 年間のプログラムで地元の学びから市全体へ広げており、学んだことを発表する機会の場としては「なんと小中学生学習発表会」がある。また地域の意見が学校に届くように、学校からの要望が地域に届く「コミュニティ・スクール」の仕組みがあることを回答した。
○地域の学びにおいて、単に知るだけでなく最後の「提案」や「探究」がシビックプライド醸成に決定的に重要であると強調した。
○ハローワーク等の現場視点から、65 歳以上のシニア層が仕事を求めて相談に来る現状を報告し、市内の活力維持やシニアの就労機会確保について言及した。
●65 歳以上の継続雇用やシルバー人材センターとの連携、新施設（Play Earth Park 等）における幅広い年齢層の職場マッチングを含め、継続して環境整備を行うと回答した。
○中学校制服へのポロシャツ導入検討時に生徒から「NANTO と入るのは恥ずかしい」と言われた経験を紹介し、地域に誇りを持てるプロモーションを要望。また過去の「若者ネットワーク事業」（ボクなん等）参加者が現在も地域に関わっているか質問した。
●「若者ネットワーク事業」（ボクなん等）卒業生のネットワークが残り、地元へ戻って貢献したいという声が出ている成果を報告。現在は「南砺未来創造塾」として高校生の地域課題解決・挑戦支援へ引き継がれていると回答した。

【閉会】

●委員からの意見を今年度下半期および来年度予算・事業に反映させる旨を伝えた。
（閉会）